

科目名	物質工学実験 Experimentals in Materials Engineering	科目コード	41050
-----	---	-------	-------

学科名・学年	物質工学科・2年
担当教員	奥村 寿子（物質工学科）
区分・単位数	履修単位科目・必修・2単位
開講時期・時間数	後期，60時間【内訳：講義 0，演習 0，実験 60，その他 0】
教科書	冊子テキスト配布
補助教材	
参考書	

#### 【A. 科目の概要と関連性】

分析化学実験は、化学実験の基礎であり、物質の成分を定性・定量的に追求する方法論を体験的に習得する場である。また、同時に実験に対する基本的態度、見方を養う場でもある。器具の基本的操作・試薬の調製から始まって、化学分析法の実践的ノウハウを習得する。

○関連する科目：物質工学実験（化学）（前年度履修）

#### 【B. 「科目の到達目標」と「学習・教育到達目標」との対応】

この科目は長岡高専の教育目標の(D)と主体的に関わる。

この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下の表に示す。

科目の到達目標	評価の重み	学習・教育到達目標との関連
① 実験に対する心構えと基本的事項を習得する	30	(d1)
② 実験器具の操作法を修得する	30	(d1)
③ 物質を正確に測定する技術を習得する	40	(d1)

#### 【C. 履修上の注意】

1年次に修得する一般化学の知識が必要である。分析化学の授業の内容をよく理解しておくこと。

#### 【D. 評価方法】

次に示す項目・割合で達成目標に対する理解の程度を評価する。50点以上を合格とする。

- レポート（100%）

【E. 授業計画・内容】

● 後期

回	内容	備考
1	容量分析の準備と説明, 0.1 M 塩酸標準溶液の調製と標定	実験当日までにテキストに目を通し, フローチャートを書いておくこと
2	水酸化アルカリ・炭酸アルカリ混合物中の両者の定量	
3	水の一時硬度の測定, および過マンガン酸標準溶液の調製	
4	モール塩中の鉄の定量	
5	硫酸銅中の銅の定量	
6	塩化バリウム2水塩中の結晶水の定量	
7	陽イオンの系統的分析のための準備と説明	
8	第1属陽イオンの確認	
9	第2属陽イオンの確認	
10	第3属陽イオンの確認	
11	炎色反応によるイオンの確認, 後片づけ	
12	実験の準備, 坩堝の恒量1	
13	坩堝の恒量2	
14	坩堝の恒量3	
15	実験のまとめ	